

衆議院法務委員会ニュース

平成 20.5.23 第 169 回国会第 12 号

5月23日、第12回の委員会が開かれました。

1 裁判所の司法行政、法務行政及び検察行政、国内治安、人権擁護に関する件

- ・鳩山法務大臣、河井法務副大臣、小野寺外務副大臣、江渡防衛副大臣、政府参考人、最高裁判所当局及び衆議院法制局当局に対し質疑を行いました。

(質疑者及び主な質疑内容)

矢野隆司君(自民)

- ・最高検察庁に設置される裁判員公判部の職務内容について伺いたい。
- ・裁判員の心理的負担軽減のために、事件の立証に当たって、死体写真の代わりにイラストを用いることの検討状況について伺いたい。
- ・司法制度改革審議会において、目指すべき新規法曹の数について年間3,000人とされた根拠を伺いたい。また、平成22年頃までに新規法曹の数を年間3,000人程度を目標とすることについて、法務副大臣の所見を伺いたい。

大口善徳君(公明)

- ・5月20日に「民法772条による無戸籍児家族の会」等のメンバーと面会し、現行制度の改善を求める要望を受けたことに対して、法務大臣の所見を伺いたい。
- ・強制認知制度の周知を裁判所職員に徹底し、申立人に対する説明を適切に行っていく必要があると考えるが、裁判所当局の所見を伺いたい。
- ・法テラスの認知度が約2割に過ぎないという調査結果を受け、認知度を高めていく必要があると考えるが、法務省の取組を伺いたい。

細川律夫君(民主)

- ・裁判官がストーカー容疑で逮捕された事件について、最高裁当局の今後の対応について伺いたい。また、失墜した信頼をどのように回復するつもりか。
- ・航空自衛隊のイラク派遣を違憲とした名古屋高裁判決に関する航空幕僚長の不適切な発言について、防衛省はどのように考えているのか。また、幕僚長に対してどのような処分を行ったのか。
- ・酒類提供罪の裁判において、被害者による記録の閲覧・謄写や意見陳述の制度が適用されないのは妥当でないと考えるが、法務大臣の所見を伺いたい。
- ・死因究明制度を整備していたら、パロマ事件の犠牲者の

続出が防げたのではないかと考えるが、法務大臣の所見を伺いたい。行政解剖の執行状況が地方によって偏りがあることについて、厚生労働省の所見を伺いたい。

滝実君(無)

- ・代理懐胎による出産について法務当局はどのような検討を行っているか伺いたい。
- ・国の利害に関係する争訟が予想される立法に関しては、法務大臣は閣議で訟務に関連する旨の発言をする必要があると考えるが、法務大臣の所見を伺いたい。
- ・公用の登記手数料が無料となっている経緯及び手数料の算定の根拠となる事件数から公用分が除かれていることの妥当性について、法務大臣に伺いたい。

河村たかし君(民主)

- ・都市部における古木の伐採について、法務大臣の所見を伺いたい。
- ・交通違反取締りに際し、取締りを受ける者との間でトラブルが発生した場合の対応策について、警察庁はどのように考えているか。
- ・建設業において、足場の不備による転落事故の問題が起きている。このことに関して、いわゆる一人親方に対する労災保険の適用関係について伺いたい。
- ・名古屋刑務所事件のような事件の再発防止のためには、事件の現場を再現する放水実験を大至急行う必要があると考えるが、法務当局の考えを伺いたい。

保坂展人君(社民)

- ・調査捕鯨船「日進丸」の乗組員が鯨肉を横領したのではないかと疑惑について、水産庁はこれまでどのような対応を行ったのか。また、横領が事実であったとした場合、水産庁はどのように対処するのか。
- ・2月に死刑存置を主張する国々が国連事務総長に対して口上書を提出したが、口上書の提出に際して、我が国が

ら各国に対して働きかけを行った事実はあるか。また、口上書提出の事実を法務大臣が認識していなかった理由を伺いたい。

- ・法務大臣は死刑と仮釈放のない終身刑とではどちらがより残虐であるか。また、裁判員法の施行を控え、死刑制度の在り方について議論を深める必要があるか。法務大臣の所見を伺いたい。

2 少年法の一部を改正する法律案（内閣提出第 68 号）

- ・鳩山法務大臣から提案理由の説明を聴取しました。